

テーマ

# 公共財投資を高める仕組みとは？

適用分野

契約理論、組織の経済学  
公共経済学



研究名称

公共財への投資インセンティブを改善させる  
所有権配分に関する理論分析

氏名所属

高砂孝緒 特任助教  
マネジメント創造学部

内容

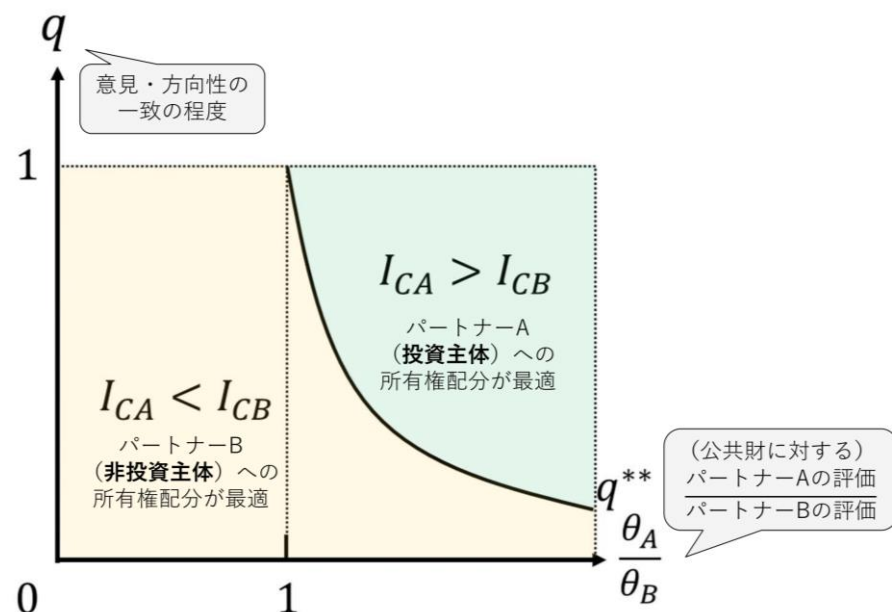
## ●特徴

非競争性・非排除性を持つ公共財は、その生産が社会的に過小となることが知られています。しかし、複数の経済主体が公共財に共同投資する場合は、**所有権の所在**を事前に決めておくことで投資水準を改善させることができます。そこで本研究では、公共財への投資水準を改善させるためには公共財の所有権を事前にどう配分すべきかを分析しました。本研究の特徴は、投資を行う**パートナー同士の意見対立から解決に至るまでのプロセスをモデルに反映させた点**にあります。このモデルは、**官民連携**（Public Private Partnership, PPP）や**子供の親権**、**大学ガバナンス**など、公共財投資を取り巻く多くの状況に対して適用可能であり、所有権配分と投資効率性の関係について、新しい視点からの洞察を与えています。

## ●研究内容

本研究では、制度比較を理論的に行う際に有効なフレームワークの1つである**不完備契約理論**を用いて、公共財の所有権配分と投資効率性の関係について分析しました。その結果、パートナー間で利害衝突が大きく、相手への説得に十分高い費用がかかる

場合には、**公共財への価値を相対的に見出していない非投資主体に所有権を配分すると投資インセンティブが改善される**ことを示しました。この結果は、「公共財に対して最も価値を見出すパートナーに所有権を配分すべきだ」とする既存研究の結果が必ずしも成立しないことを示唆しています。



図：各所有権構造下における投資家の投資インセンティブ (Takasago (2023)をもとに筆者作成)

キーワード

公共財、投資インセンティブ、最適所有権、不完備契約

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメントート
- 共同研究